

令和2年度弥彦村立弥彦小学校・中学校

第1回 学校運営協議会議事録

1 開催日時

令和2年6月24日(水) 16:30 ~ 18:30

2 場 所

弥彦総合文化会館 小ホール

3 出席者

【委員】

宇田委員、藤澤委員、小柳委員、山本委員、渡邊（晃）委員、
渡邊（真）委員、土屋委員、渡邊（夕）委員、三方委員、武石委員、丸山委員、
橋本委員、本間委員、石黒委員、河井委員

【事務局】6名

酒井、柏原、阿部、坂爪、堀（隆）、徳永

4 内 容

(1) 開会

「地域とともにある学校」を目指し、地域の子どもたちは地域で育てるということを考えたときに、学校だけでは解決できない様々な課題が出てくる。

委員の皆様からは、課題を共有する中で、自分の立ち位置や団体で何ができるかをぜひ考えていただきたい。そして、行動を起こす中で、地域の他の人にも声をかけていただき、子どもたちのためにお力添えをいただければと思っている。

昨年度からスタートした学校運営協議会であるが、今年度は何か一つでも、活動が目に見える形になっていけば良いと考えている。

(2) 委嘱状交付

前任者の残任期間を引き継ぐ形で、2名に学校運営協議会委員を委嘱し、委嘱状を交付した。

(3) 議題

ア 学校経営方針等について

(ア) 小学校の学校経営方針について

小学校長より弥彦小学校の取り組みや現状についてプレゼンテーションを行った。説明に対する質疑・応答については下記のとおり。

【質疑・応答】

質疑：①課題として挙げられているものの中に「学力の向上」があるが、これまでの取り組みが学力の向上につながっていない原因は何か。

②説明の中で、子どもたちのあいさつについて触れていた。セーフティスタッフの活動の中で、大人が子どもたちにあいさつをしても、返ってこないことがある。その理由をどのように考えるか。

回答：①原因を特定するのはとても難しい。ただ、学習したことを振り返ることはとても大切なことなので、子どもたちには“振り返り”を促している。学力の向上にはコミュニケーション能力の向上も大切な要素となるので、学び合いや地域の方と話す機会を確保することで、結果的に学力の向上につながるのではないかと考えている。

②（直接的な）理由はわからない、というのが正直なところ。教職員には、諦めずに積極的に子どもたちに声をかけるよう促しているのも、ぜひ地域や保護者の方々にも子どもたちへの声かけをお願いしたい。

質疑：今年度は新型コロナの影響で、小学校の子どもたちと外部との接点が少ない中、どのようにして地域との関わりの機会を確保するのか。

回答：緩和についての議論が徐々に進められている中であるが、可能な限り積極的に関わられるように検討していきたいと考えている。

(イ) 中学校の学校経営方針について（河井委員より説明）

中学校長より弥彦中学校の取り組みや現状についてプレゼンテーションを行った。説明に対する質疑・応答については下記のとおり。

【質疑・応答】

質疑：①説明の中でいじめ対策の取り組みについての話があったが、取り組みを行う中で良かった事例などはあるか。

②いじめの定義やそのカウント方法は。

回答：①生徒会の活動の中で「いじめは良くない」ということの意識づけを行っており、そのことが浸透してきていると思う。

②行為に対して、相手が嫌だとか苦痛を感じたらそれはいじめになる。カウント方法については、いじめアンケート等でいじめに該当するものがあつたり、生徒からの相談でいじめとみられるものがあれば、それはカウントされるものになる。

質疑：説明の中で「あこがれアンケート」と「思考ツール」という言葉があったが、どのようなものか。

回答：「あこがれアンケート」は、弥彦中学校独自のアンケートで、いじめ対策の一つとして取り組んでいる。

「思考ツール」は、授業で取り扱う内容等のイメージ化・可視化のための道具と考えていただければよい。

以上のとおり、小・中両校の学校経営方針の説明と質疑・応答を終え、会長より出席した委員に両校の経営方針について諮ったところ、満場の拍手をもって承認された。

イ 協議

事務局よりワークシートの記入の仕方と協議の方法について説明し、グループ協議を行った。委員は配布された名簿のとおり、A～Dの4グループに分かれ、小・中学校の課題の共有、今後の目標、自分の団体や地域で何ができるか等について話し合い、グループごとに発表した。発表内容については下記のとおり。

(ア) Aグループ

両校の説明からピックアップした課題としては、学力の向上や社会性の育成が挙げられた。

知り合いが多い子は社会性も育まれるので、地域の大人が外に出て積極的にあいさつをし、互いの顔がわかる関係づくりをすべきとの意見があった。

協力をお願いできそうな団体として、今年はずり区長会とPTAに働きかけができればよいとの提案があった。

(イ) Bグループ

両校の説明からピックアップした課題としては、学力の向上、不登校、いじめ問題、メディアコントロール等が挙げられた。

また、短期的な目標(4か月後)として、地域住民が気軽に入れる学校を目指すことや、1年後の目標として、学力を身に付けたその先を子どもに考えさせるといった提案があった。

課題に対する目標・具体的な取り組みとして、学校や子どもの要望に対応するためにボランティアを集めること、親が何をすべきか学習する(講師を呼んでの学習会の機会をもつ)こと等が挙げられ、協力をお願いできそうな団体として、PTA(親へのはたらきかけ)や社会福祉協議会(ボランティアへの働きかけ)が挙げられた。

(ウ) Cグループ

両校の説明からピックアップした課題としては、学力の向上、メディアコントロール等が挙げられた。

課題に対する目標・具体的な取り組みとして、学力の向上については(子どもたちの姿勢として)、「人の話を聞く場面でしっかり聞ける→意見を求められたら答えることができる→静と動を使い分けられる(メリハリ)」と段階的なもの挙げられた。

メディアコントロールについては子どものことについては親が責任をもつとの観点から、PTAでルールづくりをしてはどうかといった提案があった。

上記に加え、小・中学校と地域が連携できるように、課題をテーマに置き換えたキャッチフレーズがあると良いという意見もあった。

協力をお願いできそうな団体として、PTA、スポ少、地区子ども会等が挙げられた。

(エ) Dグループ

両校の説明からピックアップした課題としては、学力の向上、いじめ問題、メディアコントロール等が挙げられた。

3つの課題に共通して、他者と会話を交わす(コミュニケーションの)機会が不足していることが挙げられ、とにかくあいさつをすることから始めるといった提案がなされた。

ウ その他

この場をかりて、各委員より意見や連絡事項等はないか聞いたところ、下記のとおり意見・質問があった。

- ① スクールサポーターの敷居がまだまだ高いように感じる。地域の人が気軽に参加できるようにできないか。

→(回答)昨年度チラシをつくり、教育委員会としても周知・募集をしているが、今年度は新型コロナの影響もあり、地域の方による学校行事への参加自体が停滞している。今後検討したい。

③ 今回の資料にあった令和元年度後期の学校評価報告書は前回の会議でも同じものが配布されたのではないか

→ (回答) 昨年度の第3回会議で配布したものには、学校関係者評価と次年度に向けた方策の欄が未記入のものである。前回の会議後に集計した内容を反映したものが今回配布したものとなっている。

(4) 閉会

活発な意見・質問への感謝と、今後の学校と地域のより一層の連携の必要性を述べた。
また、次回の予定を委員へ伝えた。

以上
(文責 事務局)